

保護者の皆様

2020年6月1日

明星幼稚園

園長 渡邊 智恵子

園便り 虹



今とてもワクワクしています。それと同じくらいドキドキしています。

長かった休園が明け、今日から保育再開となりました。

しかし、幼稚園が始まって良かったと手放しで喜べない現実とともに、これでやっと本来の幼児教育が始められるという喜びが共存している、そんな感情です。

これを書いている今、まだ園児全員のお顔を見られていません。

初めてご入園の年少組のお子さんはどんな姿で来てくれるのかしら、進級の年中組の子どもたちは大きくなっていることでしょうか、年長組は今日から2階の保育室になるけれど心配なことはないかしら、などいろいろな想像しています。

今年も明星大学の学生が年少組に入園後8日間はお手伝いに来てくれる予定でした。しかしコロナの影響で大学は未だリモート授業です。教育実習も秋以降に変更になりました。その関係で今年度はお手伝いの学生はおりません。基本、教員2名でクラスの半分(11~12名)のお子さんを担当することになります。

例年は学生を含め大人が7~8名いることにより、入園当初の不安が軽減され、慣れるのが早いことは事実です。それがなくなりますので、園に慣れるまでに時間を要するお子さんもいることでしょうか。ご心配とは存じますが、必ず幼稚園に慣れて、登園を楽しみにしてくれる日がやってくると信じて、お子様の不安な気持ちを受け入れ、励ましていただきたいと存じます。ご心配や、ご不明なことはメール、電話などで担任にご遠慮なくご相談ください。

さて、休園中は私を含め管理職3名はほぼ毎日出勤していました。

年度初めということに加え、緊急事態宣言発令・解除の日程が間際まで発表されず、保護者の皆様へのお知らせを何度も書き換えたり、外部へ発信したり、明星小学校と連絡を取り合ったり。これまでの日常とは全く違うことを日々考えて

いる状況でした。バタバタと過ぎた2ヵ月間でした。

担任の先生方かというと、緊急事態宣言下で対象となる職種のお子さんを数名預かったり、配信動画を作成したりしていました。（「これで私たちも夢のYouTuber！」と楽しそうに企画を練ってくださっていました。）

他にも再開後の保育計画を立てたり、教材準備やコロナとの共存のための安全計画を立案したりと何かと忙しくしていました。

一番申し訳なかったのは、休園期間が変更になる度に、先生方が綿密に立てた入園を祝う会の計画を何度も練り直す結果になったことです。

それでも担任たちはお預かりする大切なお子様の一生に一度のご入園を、形は小さく人数を抑えたとしても、お祝いする気持ちはいつも以上に、出来ることは精一杯して子どもたちを迎えたいと計画してくれました。

おそらくこの状況下でお子様が幼稚園に在園している方々は、とても残念な気持ちや「仕方がないな、この1年は。」とあきらめにも似たお考えの方も多いことでしょう。

しかし幼児期の子どもたちにとってはこの1年は、無いことにしたり、あきらめたりしてはならない1年だと断言できます。何があっても彼らが成長していく大切な1ページとなる1年間に変わりはないということです。

私たち教職員は残りの10か月を子どもたちの健やかな成長のために力を尽くしたいと考えています。

それは休園だった2か月を急いで取り戻すという意味ではありません。

初めからきちんとステップを踏んで時間をかけ、育むべきは育み、省くべきは省き、じっくり一人ひとりの子どもと向き合ってまいります。

コロナ後の「新しい日常」を幼児教育の現場でどう実行せよと問われているのか。答えはなく、おそらく私たちにその答えを見つける事が求められているように感じています。

さあ、新しい一年が始まります。これまでと同じようには行えないことが増え、保護者の方と同様に私たち教職員も立ち向かわないとならないことが増えるでしょう。

しかし「一番は子どもの笑顔」を合言葉に前を向いて過ごしてまいりましょう。改めまして、今年度もよろしく願いいたします。